

【概要ページ】

四国縦貫自動車道 伊予～大洲の事業評価

事後評価

1. 主な効果

四国縦貫自動車道 伊予～大洲の開通により

- (1) 交通事故の減少
- (2) 港湾へのアクセス向上
- (3) 三次医療施設へのアクセス向上
- (4) 観光地へのアクセス向上

などの効果が発現されました。

2. 費用と効果の確認

本事業にかかる費用と生じる便益により、算出される費用便益比は3.1となります。

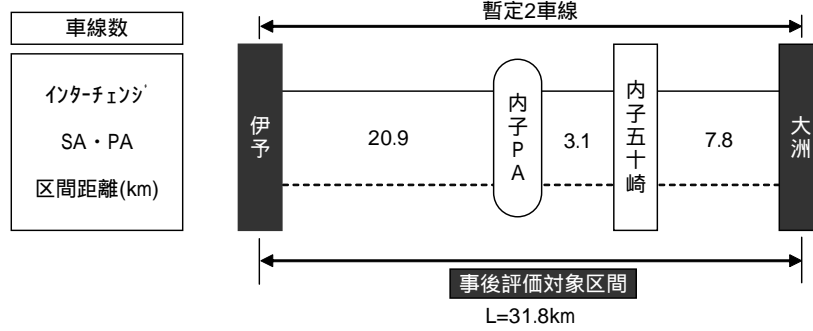
費用便益比	=	3.1
-------	---	-----

3. 地図

位置図



事業概要図



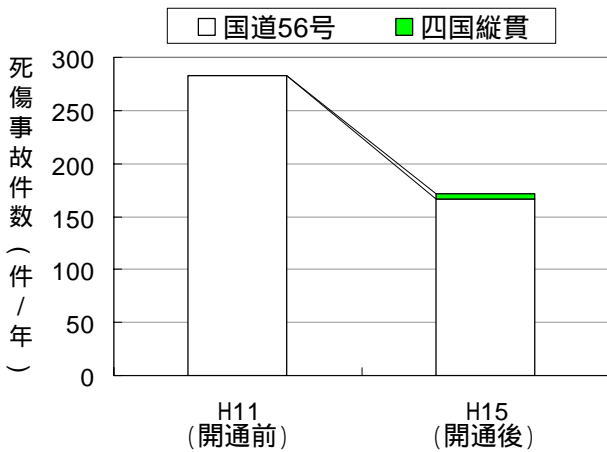
4. 事業概要

事業名	事業区分	事業主体	起終点	延長	全体事業費
四国縦貫自動車道 伊予～大洲	高速自動車国道	西日本高速道路㈱	自：愛媛県伊予市稲荷 至：愛媛県大洲市東大洲	31.8 km	1,264 億円

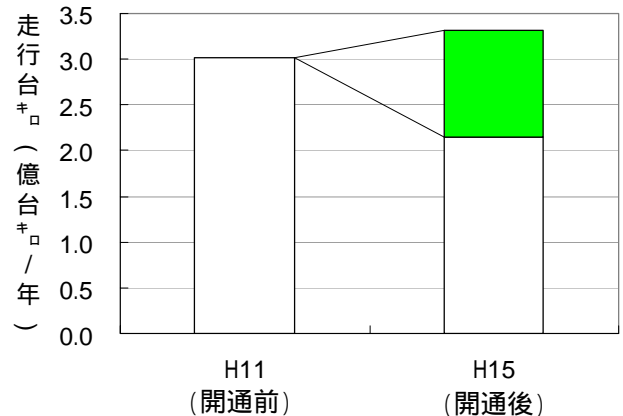
(1) 交通事故の減少

事業前後

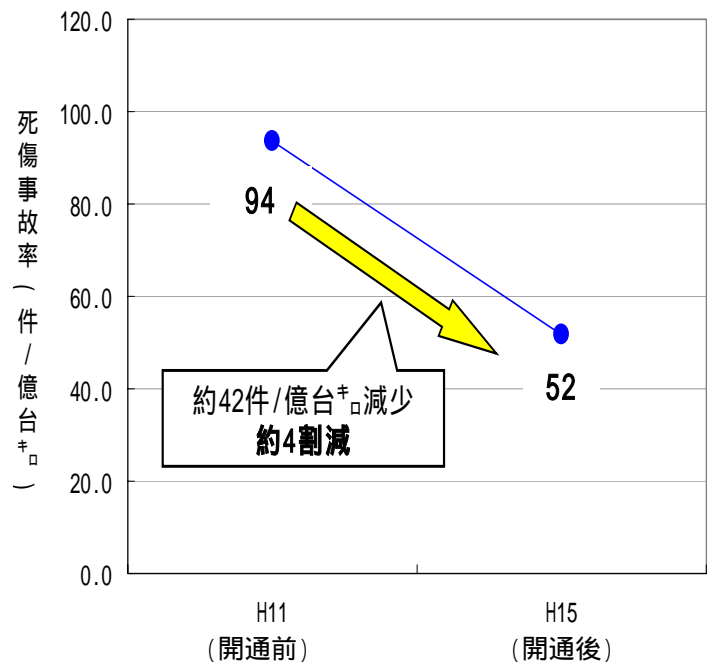
四国縦貫自動車道とこれに並行する一般国道56号を合わせた死傷事故率は、93.7件/億台^{キロ}(H11)から51.9件/億台^{キロ}(H15)へと約3割減少しました。



A 死傷事故件数



B 交通量 (走行台^{キロ})



一般国道56号と四国縦貫道を合わせた死傷事故率 (A/B)

事故率 = 事故件数 / 交通量

参考

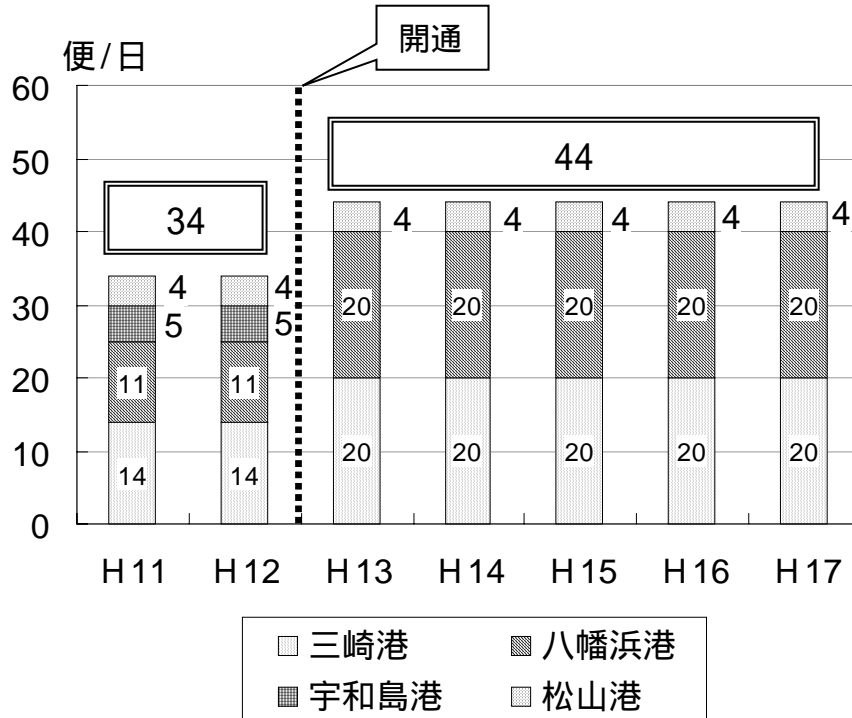
走行台キロとは：自動車の走行距離の総和。(各区分延長とその区間の交通量を乗じて各区分を足し合わせた総数)

事故件数には区間交通量だけでなく自動車の走行距離による要因も含まれるため、交通量は走行台キロによるものとしています。

(2) 港湾へのアクセス向上

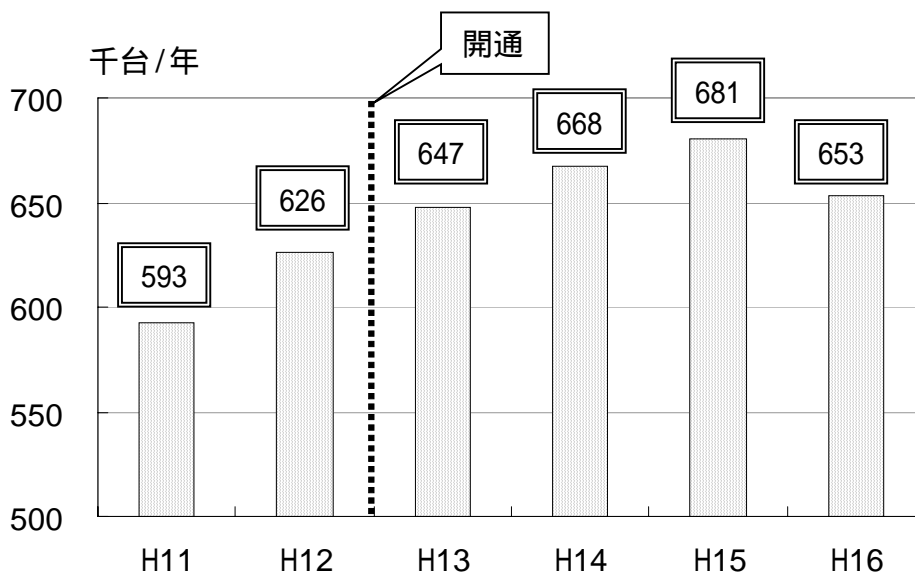
事業前後

愛媛(松山以南)～九州間のフェリー便数が開通前の34便から44便へと増加しました。また、それにもとない四国～九州間のフェリーの自動車航送台数が593千台/年から653千台/年へ増加しました。



愛媛(松山以南)～九州間のフェリー便数の推移

出典：フェリー会社 HP



四国～九州間のフェリーの自動車航送台数の推移

出典：四国運輸局海事振興部資料

(3) 三次医療施設へのアクセス向上

事業前後

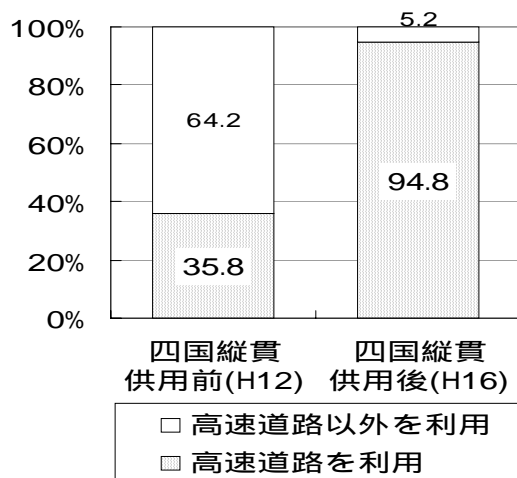
大洲市から三次医療施設(愛媛県立中央病院)への所用時間が 92 分から 68 分へと 24 分短縮されました。大洲地区からの救急車管轄外輸送時の高速道路利用率が約 4 割から 9 割以上に上昇しました。



時間短縮
92分 68分 24分短縮

出典：道路交通センサス
道路時刻表

大洲市から三次医療施設への経路変化



大洲地区消防事務組合の救急車
管轄外搬送時の高速道路利用率

出典：西日本高速道路(株)資料

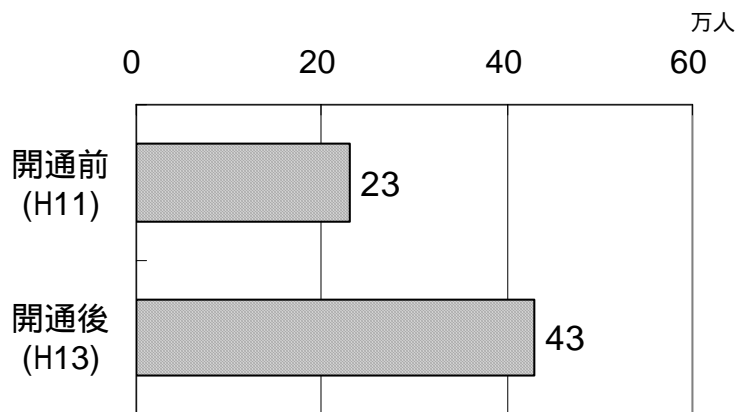
(4) 観光地へのアクセス向上

事業前後

四国縦貫自動車道の開通により、内子町の観光地へ訪れる県外からの入込客数が約2倍に上昇。県外からの観光客の割合も4割から8割へ上昇しました。

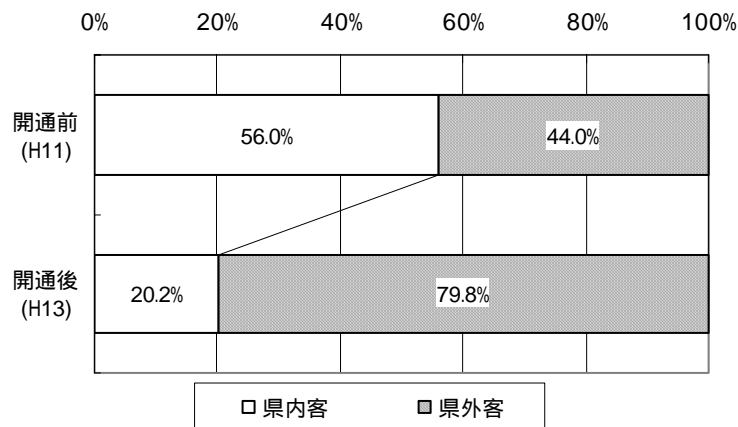


内子町の町並み



内子町の観光入込客数の変化

出典：内子町調べ



内子町の観光入込客数の県内客と県外客の割合

出典：内子町調べ

(5) 環境の復元

道路建設に伴う河川付替を自然石の石積で行った結果、ホタルが生息可能な環境を復元できました。



改修後河川の様子

出典：西日本高速道路株式会社資料

全滅のピンチ免れた

ホタル「お帰り」

石積み護岸奏功 再び乱舞

中山の藤之郷川

高瀬建設の影響で、金沢の流域にひびいていた、管内有数のホタル生息地、伊予郡山町永木の中山支流の藤之郷川（おひさご川）に、ホタルがふがえった。

工事の土砂が流入した一帯はほぼ全滅状態になった。同川は、自然石を使った「土壁約一五メートルの石積み護岸方式での付け替え工事」が昨年六月に完成。幼虫の放流を続けていた伊予郡山町保存会（一九七七年一月に設立）は「自然に近い状態に戻すため、再びホタルがすみやすい環境になった」と喜んでいる。

同保存会によると、藤之郷川は近年、松山自動車道の南予延伸に伴う高架建設や周辺工事などで水質が汚れ、一時はホタルが再び乱舞するようになった藤之郷川は、午後八時半ごろ、伊予郡山町永木

水面に夏景色

受け、防災上の問題から「公園化」すると、上流域の一部（クリート）施工した以外の計約一・二キロ間で自然石を積み上げた自然護岸とした。工事終了後の昨年八月、保存会が、養殖したホタルの幼虫約七万匹を、藤之郷川の上流から下流にかけて三カ所に放流した。この放流に成功し、今月上旬、中流付近から下流にかけてホタルが舞うようになった。

「この護岸は環境に配慮した工事の良本になると思っています」と話している。

出典：愛媛新聞(H12.6.19)

(6) 費用と効果の確認

費用便益比：3.1

道路整備の効果は多種多様ですが、このうち金額に換算できる効果に限定して、もたらされる便益を算出すると5,819億円となります。
これに対して、建設や維持管理にかかる費用は1,877億円です。
したがって、本事業にかかる費用と生じる便益より算出される費用便益比は3.1となります。

総費用		総便益			基準年
1,877億円		5,819億円			
事業費	維持管理費	走行時間短縮 便益	走行費用減少 便益	交通事故 減少便益	
1,635億円	242億円	5,193億円	448億円	178億円	平成17年

費用、便益は、供用開始後40年後までに発生するものを現在の価値に換算した上で、合計して算出しています。

四捨五入の関係で、各計数の和が合計と一致しないところがあります。